

1993年7月15日発行 1975年2月28日第3種郵便物認可  
毎月1回15日発行  
定価／150円  
年間購読料／2,000円  
(送料共)

編集／緑の地球ネットワーク  
Green Earth Network

大阪市港区市岡元町3丁目9-16 西建ビル  
TEL.06-583-1719 FAX.06-583-1739 (西552)  
郵便振替 大阪4-128465  
COM21 通巻312号 発行／COM企画室

# 緑の地球 GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

- ネパール考察団が帰国……………P 2
- よみがえる六甲山の緑……………P 5



六甲山はハゲ山だった／治山工事中の再度山（1903年・5ページ参照）

1993・7  
**18**

# ネパール雨期の調査行

アジア自然塾塾頭 稲 村 昭 南(談)

ネパール緑化考察団はたいへんな苦労をしながら、これから緑化協力の可能性をさぐっています。東京から同行され、一足さきに帰国された稻村昭南さんに旅のようすを電話で聞きました。

(文責・編集部)

雨期といいながら、ネパールは天候がおかしかったですね。雨には降られましたが、1日目にポカラの先のビリタンティに泊まり、そこから歩きはじめて2日目はウレリ泊、3日目ゴラバニのけっこう高い峰を越えて、チトラで泊りました。タトパニからガーサに行き、ここで本街道を離れて、カリガンダキ河の反対側のサウール村に行きました。ここが前に佐野さんがツラチャンさんと行かれた村です。日本にいるときに根回しがしてありましたから、無事に仮契約をすませました。現地の単位で50ロブニのかなり広い土地を借受け、苗畑を運営しようというものです。

カリガンダキ河を渡る途中で、東間さんが流れに押されて転倒し、左のてのひらに全治1か月の裂傷を負い、左手を吊つたまま、ツクチ、ジョムソンまでいくことになりました。

その後ローマンタンもふくめて、ムスタン地方に入りました。その間の

旅路は、東間さんのケガを除けば、全体として順調にすすみました。4000mの峰を越え、ローマンタンに着いた時点で、佐野さんの頭痛がひどくなり、奥村さんも高山病と風邪の合併症のようのがで寝込みました。翌日には王様が帰ってくる予定でしたが、全員に集まってもらい、事情を説明して、急遽、下山を決めました。下りる途中で王様にも会うことができました。馬を利用したりしながら、またジョムソンに戻ってきたんです。

私たちはそこで別れ、計画どおりトロンバス(5430m)を越え、アンナブ

ルナを一周してポカラに戻りました。

佐野さんたちは、もときた道をタトパニまでもどり、ゴロパニの厳しい峰を避けてバグランに出ました。ここからはトラックの通る道がポカラに通じているので、トラックとバスを乗り継いでポカラに戻ったんです。7月7日にここでふたたび合流しました。カトマンズに戻ったのは9日の夜です。

私たちは14日に日本にむけて飛び立ったんですが、その翌日からゼネストが始まりました。じつはジョムソンにいる6月30日ごろ、すでにコミュニストのデモがあり、政府発表で10人、実際は25人が射殺されたんです。ネパールの政情はそんなぐあいです。

いまも大規模なゼネストがつづいているはずで、佐野さんたちの飛行機が23日に飛べるかどうか、懸念しています。なにがあってもけっして走らない、屋上には立たない、カメラをもたない、それが生命を守る方法です、と伝えて、空港で別れてきました。

## ネパール考察団、元気に帰国

ネパールの政情不安と大雨・洪水のニュースがあいつぎ、みなさんから心配していたネパール緑化考察団の佐野さん、東間さん、高力さん、喜多さんは7月25日夜、元気に帰国しました。森脇さんと奥村さんはネパールを出国し中国の新疆へまわっています。とりあえず無事をお伝えし、くわしい報告は次号以降でおこないます。(7月26日)

## 郵政省国際ボランティア貯金 黄土高原緑化協力に配分決まる

郵便貯金に「国際ボランティア貯金」があるのをご存じですか。利子の一部が寄付金となり、「南」の諸地域を中心にNGOがおこなう協力活動に配分されるというものです。

緑の地球ネットワークは、黄土高原の森林再生について申請したところ、苗木代278.2万円、苗圃への協力費108.9万円、恒山森林公園の見本林建設費138.6万円、総額525.7万円の配分が決定しました。6月24日に大阪港郵便局で通知式があり、西山五郎、高

見邦雄両世話人が出席しました。

1992年度のボランティア貯金への貯金件数は370.4万件で、寄付金額は24億円余り、前年度繰越金、必要経費などを調整した配分原資は21.8億円余りだったそうです。それが185団体のおこなう240事業に配分されることになり、緑の地球ネットワークも上記の配分をうけることになりました。

現地からもさっそく、自分たちの森林再生事業が認められ、たいへんうれしいという返事が返ってきました。

これまで私たちは、たくさんのかたからこの活動にご協力をいただきました。その多くは会員とその周囲のかたで、責任と感謝を感じざるをえない、いうならば顔のみえる関係でした。私たちはその出発点の気持ちを、今回の寄付金配分の背後にあるたくさんの人たちにもちづけ、地元の人びとともに十分に相談し、もっとも有効なかたちで活かしたいと思います。

5月の緑化協力団の団長・清田祐一郎さんにこのことを連絡したら、「それはたいへんだな、同じくらいは自力で集めないと運動にならないよ、がんばろう」とのことでした。きびしいことですが、ほんとにそのとおりだと思います。みなさんのいっそうのご協力をお願いいたします。

# 緑化協力の前進を確信

共青団雁北地区委員会副書記 刘懷光

ボブラの植林で様相を変えつつあるヤオトンの村。

まもなくワーキングツアーガ出発しますが、黄土高原で森林再生に奮闘する若いなかまからたよりがとどきました。

雁北地区は山西省の北の端にあり、地区を流れる最大の河が桑干河で、4つの県、16の郷、92の村を流れています。また北岳恒山は有名な観光地であり、恒山・桑干河はこの地区的自然を代表する景勝地です。

共青団雁北地区委員会は、1989年、恒山・桑干河を重点に、広大な「桑干河青年森林プロジェクト」の建設を集中的にはじめました。この数年間にすばらしい成果をあげ、中央政府の林業部、全国緑化委員会、共青団中央の表彰を受け、また党中央顧問委員会の薄一波副主任は題詞を贈って激励してくれました。

共青団中央の指導者の斡旋で、去年の初めからはじまった日本の緑の地球ネットワークとの協力は、恒山・桑干河の緑化に新しい活力を注ぎこんでくれました。私たちの協力がすばらしい

成果をあげつつあることは、この2年間の実際が証明しています。

共同事業者としての私たちがまず感じたことは、緑の地球ネットワークのみなさんがすばらしい団結力と責任感をもっていることです。佐野茂樹さん、高見邦雄さんは困難な条件をものともせず、現地で大量の生きた資料を把握し、活動を活発に展開するための基礎をつくりました。

また数次にわたる緑化協力団のメンバーたちは、老若男女を問わず、生態環境、自然環境の改善にたいする強い意欲と責任感をもち、その熱心な活動ぶりと真剣な態度、生活規律の厳格さは、この地区の人たちにたいへんいい印象を残しています。

「長」というような肩書きをつけられるのは好きでないし、また似つかわしくもないのだが、何の因果かワーキングツアーグの団長になってしまった。ツアーグのメンバーのなかにはネットワークの世話人が2人いる。より熱心で頼りになる東川さんが秘書長として実務を引き受けてくれたので、もう1人の頼りない世話人が団長になった次第である。頼りない団長とともにツアーグに参加する者の心得

は次のとおりだから、参加者は肝に命じてほしい。

ネットワークは、自立した個人の集まりであり、各メンバーの主体的な活動がツアーグを成功させるのである。自立した個人はゆめゆめ団長に注文や要望、不平などを言ってはならない。

不心得な会報編集者が私に何か書けと言ってきた。気の弱いに私には断る

勇気がないので、私の経験の触りを書くことにする。

5年前まで、私は枚方市役所でごみ焼却場建設の仕事をしていた。環境アセスメントも実施したが、通常のアセスメントは、煙突から出る有害ガスが地面に降りてくるときの濃度を予測し

日本に住んでいるみなさんが、遠い中国までやってきて、しかも自分たちのお金をだして、中国の森林再生に協力するといった精神は、雁北の人びとのあいだに強い反響をまきおこしました。以上のべたことは私たちの一一致した評価です。

私たちの共同事業は、今後ますます強固になり、つぎつぎに成果をあげることを、私は信じています。会員のみなさんによろしくお伝えください。

の酸素を消費しており、この酸素を生産するには、枚方市の面積の1.7倍の森林が必要であるという結果がでた。1987年のエントロピー学会シンポジウムで、この森林を確保することがごみを燃やし続けるための必要条件である、というようなことを発表した。\*

そんなことをわが役所の人事担当者は知らないはずだが、奇しくも翌年の1月、私は一枚の辞令によって公園緑地課勤務となり、酸

## 黄土高原に木を植える私の理由？

夏のワーキングツアーグ長 川島和義

て、その値が環境基準以下だから人の健康に影響はないというようなものである。ごみ焼却場が酸素を消費し、二酸化炭素と熱を排出することが環境にどういう影響を及ぼすかというようなことは、検討しないのである。

私は、ごみ焼却場での酸素消費量について簡単な試算をしてみた。すると枚方市のごみ焼却場は1日に200トン

素消費者に関する仕事から酸素生産者に関する仕事に転職したのである。しかし、公園も、開発で緑を失った都市にわずかばかりの緑地を残すものでしかない。かくして、本格的な緑化を求める私は、海外に向かうことになったのである？？？？

\*『地域自立を考える・エントロピー読本V』（日本評論社）217頁～参照

## 神戸市立森林植物園の観察会

### —六甲山緑化の歴史をまなぶ

三宮からバスで20分のところにある神戸市立森林植物園を知っていますか。GENの“自然と親しむ会”では7月4日にここを訪れました。朝のうちに前夜までの大雨もうそのような好天。20数名の一行はあじさい祭でにぎわうなか、副園長の大野さんの説明を聞き、森林展示館を見学しました。

ところで、六甲の山並みが緑に見え



森林の生命活動をじっくり観察。

るのはなぜだと思いますか。昔から、自然の草木で……。ところが違いました。びっくりしました。展示館の明治中期の写真、木1本ない丸裸。神戸市森林整備事務所の和田邦彦さんの説明によれば、神戸に居を構えようとした欧米人が、「これでは安全でおいしい水が飲めない」と植樹指導を始めたとのこと。その様子を写した写真もあ

りました。この時の努力がなければ今の六甲山はなかったのです。

きれいに咲きそろったアジサイを見ながら植物園の奥のほうのアメリカ区へ。北米の針葉樹に囲まれた静かな芝生で、輪になって自己紹介をしたあとおべんとう。昼食後キノコを探ったり、絵をかい

たり、昼寝をしたり、気功をしたり、木の高さや幹の直径を測ったり……思い思いの楽しいのんびりしたひとときを過ごしました。

しかし、その頃から雨がボツリボツリと降りだしてひどくなるばかり。いそぎ足で、トチノキやアカマツの生えた自然観察路を歩いて森林展示館へ。それでも、途中の小さな池では、木の枝さきに産みつけられたモリアオガエルの卵と小さなオタマジャクシを見たり、アジア区の針葉樹を観察したり、あじさいクイズに答えてアジサイの苗をおもやげにもらったりしました。

あいにくの雨で予定の半分ぐらいしかできませんでしたが、和田さんのお話に感銘をうけ、広い森林植物園の魅力の一端を体験できて良かったと思います。大野副園長さんのお話では、園としても今後、観察会や柴刈り、間伐作業等の行事をつうじて市民と連携していきたいとのこと。

楽しみながら、少しずつでも勉強し体験していくGENの“自然と親しむ会”に、どしどし参加して下さい。また、こんなこともやってみたいというご希望があればお寄せください。

## 山西省の自然

石原忠一  
(92年緑化協力団団長)

### ⑫麻黄・エフェドラ

大同市の東外れ、巨大な発電所が、古生代（3億年前）のシダの森林の化石を燃焼させて、水蒸気圧にかえ、タービンを高速回転させて電力にかえ、北京・天津へ届ける数十万ボルトのパワーライン（送電線）の鉄塔が並ぶ下を一路東進。

道端の土に、日本でお馴染みの赤土が顔を出します。左窓から眺める行く手に、火山噴丘が次々と姿をあらわしました。大同火山群地帯を通過しているのです。人類が活動をはじめた約170万年前からはじまり現在にいたる第4紀の火山活動による玄武岩の上にいることに気がつきました。

50kmも走ったでしょうか、右手へ直角に方向を変えて、桑干河を横切るのです。溶岩流で堰き止められた天然湖

を、ロックフィルダムで補強した広大な冊田水庫の堰堤の下の黒々と露出した玄武岩の河床のガラガラ道を喘ぐようにして右岸の黄土大地へのり上げてゆきます。

しばらく前に直下型地震に襲われて、被害の痕の生々しい村落の中の荒れた路を、大きくゆられながら通り抜けて、徐町郷へ急ぎます。

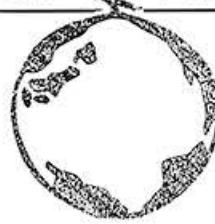
最後の訪問地での歓待のあと、植林現場へむかいました。車をおりて、足もとの一木一草を撫でるように見渡した私の眼に、大柄のスギナのような小灌木

の姿がとびこんできました。これぞ神農がすすめたと言い伝える妙薬「麻黄」であります。

古生代のシダ類に替わって、中世代に全盛をきわめた裸子植物の末裔（現生わずかに700種）ソテツ・イチョウ・針葉樹と肩をならべる麻黄綱（約40種）のマオウ *Ephedra sinica* が、この乾燥地帯によく耐えて生き残っているのです。



足もとの貴重な植物＝麻黄、薬材である。



# よみがえる六甲山の縁

和田邦彦 (神戸市森林整備事務所)

六甲山はハゲ山だった！ いまのような縁が回復するまでは先人たちのたいへんな努力があったのです。

「私は瀬戸内海の会場から六甲山の禿山を見てびっくりした。はじめは雪が積もっているのかと思った。」

1881年に牧野富太郎氏が、高知から東京へ行く際に神戸に寄った時の言葉です。

港神戸の背山として、縁豊かな美しい景観を誇り、ハイキングの利用も多い神戸のシンボル六甲山ですが、かつては荒廃の時代がありました。

「六甲の木、勝手たるべし。」

大阪城築城の際、六甲山から石や木を提供した功績から、太閤秀吉により禁伐がとけて木を切り出し、燃料や肥料に木のみならず、草をもとり尽くしたともいわれています。

表六甲側の村と、裏六甲側の村とが柴刈りのために、境界争いを250年も続けた記録もあります。表六甲側の麓から、口一里山、中一里山、奥一里山と呼び、入会林を決めていた名残の地名が今ものこっています。

造林は、明治開港以来人口が増えたため必要となった布引貯水池の水源涵養を目的として、滋賀県の田上山を見本として始まりました。その数は9年間に665町歩(=ha)の新植と、1900町歩の補植が行われ、計13種類、500万本の造林が行われました。途中から自ら苗を作り植えています。樹種はマツ・ヤマハンノキ・スギ・ヒノキ・サクラ・モミジ・ハゼ等多種類を植えていることから、水源涵養のほか、治山砂防、経済林、風致林ともなるような多機能な森林づくりをめざしていたことが伺えます。

ただし、少し木が育つと開発、山火事、乱伐が始まり、水害の洗礼をも受けています。そしてまた、植林する。今は、国立公園等の法規制の網をかぶっています。

今までに90年間引き継がれた植林面積は約2270ha、植栽本数は30数種、約

1000万本を数えます。

土地の公有地化も進み、現在は神戸市域の六甲山約7000haのうち表側の3分の2を占める約2700haが、神戸市や財産区有林になっています。

六甲山は90年たった今、自然に育った山にも見えます。しかし、人が育た山です。風化花崗岩という肥料けのない条件の悪いところです。植栽実績には、補植は入っていませんが、新植の何倍と植えたという記録もあります。先人の努力に頭が下がります。

中国の黄土高原への造林は、少雨・アルカリ等、過酷な条件は六甲山よりひどいそうですが、100年後、縁が育っていることを祈らずにはおれません。

『撫育』ぶいく。木をなでて育てる。私の好きな言葉です。

## 【神戸市有林の主な造林の歴史】

1868年(明治元年) 神戸港開港(絵図は禿山)。

1887年 市営上水道の建設に着手

1902年 造林開始(水源涵養林)  
(治山砂防林)

1920~30年代

山上ドライブウェイ等開発、  
乱伐、山火事で荒廃

1938年 阪神大水害

(災害防備林の造成開始)  
(混交林化の推進)

戦後 燃料乱伐、マツ枯れて荒廃

1967年 水害、土砂崩れ  
(森林改造事業の開始)  
(修景樹林の造成)

1974年 国際植生学会が再度山(ふたたびさん)視察



植林5年後の再度山。表紙の写真と比べてほしい。

「人の手で縁を復元し、しかも記録が残っている例は世界に珍しい。今後とも植生の変化を記録することが大切である。」

植物社会学の世界的権威・故チュクセン教授(西ドイツ)

1975年 再度山(植林発祥の地)に永久植生保存地を設定

5年ごとに調査(今までに5回終了)。

1985年 背山緑化の基本方針

①神戸らしく、うるおいのある都市景観と一体となった美しい背山をまもり、つくり、育てる。

②市民参加による背山緑化を推進する。

③災害に抵抗力を有する背山をつくる。

1991年 緑地の保全、育成および市民利用に関する条例を制定。

## GEN学習会

### よみがえる六甲山の縁

講師=和田邦彦さん

●9月13日(月) 18時45分~

●弁天町市民学習センター

(弁天町駅そばORC2番街7階)

参加費 700円

# 黄土高原に緑を！

## 協力のための基礎知識（2）

黄土高原での体験を話すと、知り合いの中国人たちがびっくりする。困難な条件下で生きぬく人びとのくらしぶりを今回は紹介してみたい。（高見）

中国の面積は 960万km<sup>2</sup>、日本の26倍もある広大な国だ。経済の急成長が伝えられるが、それと同時に地域格差が拡大し、1国のなかに「南北問題」（実際には沿海部と内陸部との「東西問題」）が発生している。

### 自然と農業環境のきびしさ

黄土高原は内陸部のなかでも貧しいところの1つ。山西省渾源県の91年の1人あたり年間所得は400元（1元=20円）、92年は447元だが、県内に28ある郷・鎮ごとにみるとまたばらつきがある。比較的豊かなのは青磁窯、大磁窯、大仁庄などで800元～850元だが、これらの郷鎮には炭鉱がある。逆に貧しいのは西河口、駝峰、呉城、南水頭など、水土流失のはげしい丘陵地か山地の郷で180元～230元。十義号のように農業だけで500元の郷もあるが、ここは盆地で水に恵まれている。

これらの数字は現金収入ではなく、収穫量を金額に表したもの。代表的な作物の1kgの価格は、アワ1元、キビ1.2元、トウモロコシ0.5元、コーリヤン0.5元、ナタネ1.3元、ジャガイモ0.25元、コムギ1元、ダイズ1.6元といったところである。

10aあたりの精製収量（カッコ内は粗収量）をみると、アワ300(370)kg、キビ240(300)kg、コムギ340(450)kg、ジャガイモ1500kg(300kgの穀物に換算)といったところだが、コムギの栽培地は限られ、また地元では「トウモロコシやコーリヤンのできるのはいい土地」といわれている。

農業生産が低調なのは、自然条件に原因がある。年間降水量が平均429mmと少なく（年ごとに差が大きく、65年は201mm、59年は703mm）、しかもその70%が夏の一時期に集中し、種まき・芽生えの春にはほとんど降らない。中国人の食事に油は欠かせないが、その油より水が貴重といわれるゆえんがここにある。そして春には「蒔いた種

が飛ぶ」ほどの風が吹く。

日本人の考えでは「ため池をつくって灌漑すべきだ」となる。可能性はあるが、丘陵地の段々畑を灌漑するのはたいへんだ。ここは北緯40度だが、標高が1000m以上あるため、無霜期が盆地で130日前後、山間では95日ほどしかない。それは雨期と重なるから、ため池による灌漑がどれだけの意味をもつか、検討の必要がある。

つぎに土壤の貧しさがある。有機質の投入が不十分なうえ、夏の豪雨で養分を含んだ表土が流され、沙漠化が懸念されている。黄土の粒子は小さく、固くしまってしまうため、土中に酸素が少なく、根が伸びにくく。

### 農村の生活をかいまみて

生活の厳しさは年収だけでは表せない。丘陵地の村にはたいてい井戸がなく、谷底の井戸までてんびん棒で水汲みに通うが、往復1.5～2kmのばいも少なくない。

農業の機械化はすすんでいない。中国の農村で耕すよりは運搬に活用される耕運機も、ここではみかけない。それにかわるのがウマ、ラバ、ロバ、ウシだが、それすら十分でない。

食事はアワ、ヒエ、ジャガイモ、マメなど地元でとれるものばかり。冬はモヤシ、ネギなどを除けば野菜がない。山西省は麺類が有名だが、渾源はコムギが少なく、農家の食卓には上らない。ムギの1種「ユウマイ」が「腹もちがいい」と歓迎されるが、消化が悪く、外来者がたくさん食べると下痢をする。黒い小型のブタと色とりどりのニワトリが放し飼いされ、ヒツジ、ヤギが放牧されるが、動物性タンパクをとる機会は多くはないようだ。

山西省の食卓で落とせないのは酢と酒。とにかくなんにでも酢をつけ、まだたりないのかレングにとって飲む。

「喫酢」には「嫉妬」の意味があってそれを話題に座がもりあがる。

渾源はコーリヤン酒の産地。50度以上のきつい酒を乾杯のたびに一気にあおる。少しでも残そうものなら「半信半疑だ」といってきげんをそこなう。500ml瓶が2～5元の安さだが、カ梅からの計り売りもある。

### 改革・開放の波がここにも

こここのこどもたちの可愛らしさといったらない。「渾源は美人の産地」という話を北京でも聞いた。でも日本とくらべると、こどもたちの成長は緩慢だ。母親の乳房に吸いついている子が歩きだすので、年を聞くと3歳だという（数えだが）。5歳くらいに見当をつけても、8歳という答えが帰ってくる。中学生くらいに見える娘が19～20歳で、来年はもう結婚するという。

ところが結婚してこどもを産むと、女性は急速に老けていく（男性もだが）。40歳代半ばと見た人がじつは30歳ちょっとで大失敗したこともある。紫外線の強さ、労働と生活のきびしさが影響しているだろうが、栄養もかかわっていると思う。

こんなふうに書くと、惨めな生活を想像されるかもしれないが、それはちがう。みんな誇りたかく、ゆったりとくらしている。こどもたちのほんとうに邪氣のない笑顔、活発さは、日本ではもう探すこともできない。私たちが豊かさの代償に失ったものの重さを思い知らされるばかりだ。

だが経済の改革・開放にあわせて、ここでも変化がはじまっている。自給自足が中心だった村に、ゆっくりとではあるが商品経済が浸透はじめめる。テレビも徐々に普及し、長時間のCMが、きらびやかな商品情報を流しつづける。果物やタマゴ、農作物をバイクにつんで、県城や大間に売りにいく人がいる。若ものを中心に、都市に出稼ぎにいく人も増えてきたようだ。

それらのプラスマイナスをどうみたらいいのか？ この春、中国の農村で農民の不満が高まり、デモや暴動が多発したと報道された。四川省、安徽省とならんで山西省の名もあった。個別にはいろんな原因があるだろうが、その底流に、地方格差の拡大、環境破壊による農業基盤の悪化といったものがあるにちがいない。

# 長江上流ゴミ処理に協力を

四川中日経済文化交流促進会会長 陳 競

会報「緑の地球」を毎号ありがとうございます。私たちの会は1991年3月の成立以来、日本への研修生の派遣などさまざまな事業をすすめています。

ご存じのように四川省は長江（揚子江）の上流に位置しますが、近年来、水の汚染がとてもひどく、十年後には魚も棲めなくなるだろうといわれております。それはさらに太平洋を汚し、また大気汚染は風に乗って日本へも波及することになります。会報16号で、橋爪新太さんは中国の環境問題にふれ「きびしい自然環境とまだまだ貧しい暮らしの中国で、緑化を語ることがどれほどのものか……」とのべ、「大気汚染対策よりもまず食うことが先決なのです」という中国人のことばを紹介しておられましたが、四川省と成都市



四川にできた友好林と筆者。

では、6月5日、世界環境デーを記念する大会を開き、マスコミも環境問題の重要性をキャンペーンしました。

私たちにとって大きな課題は、四川省の各県にゴミ処理場を建設することです。このまま放置されるとゴミの山に埋まってしまうことになりかねないからです。

私は1985年、日本の西脇市を訪問した際、そこのゴミ処理場を見学したこ

とがあります。鉄、ビニール、ガラスなど4つの処理施設に分かれ、町は清潔そのものでした。なんとか日本の設備を導入して、四川省の各県にゴミ処理場を建設しようと、関係部門と相談検討し、努力をつづけてきたのですが、残念ながらまだ実っていません。まず長江上流沿岸の市・県からでもちゃんとしたゴミ処理ができるよう、日本の関連の企業などを紹介していただくわけにはいかないでしょうか。

みなさんは中国山西省の黄土高原で緑化の協力をされていますが、この四川省にも昨年秋、日本の広島県から代表団230人がこられて、錦竹県に中日友好林をつくられました。そのときの写真を同封しますが、熱烈な交流があり、たいへんにぎわいました。もしみなさん方が四川省にたいしてなにか要望があれば、私たちもご協力いたしますので、いつでも遠慮なくおっしゃってください。

それぞれの国で、地球人類の危機について人びとに知らせていくのは、私たちの役目です。

私たちはまた、世界中のグループと連絡をとりあい、おたがいに士気を高めあい、政治的影響力を強め、アイディアを交換しあわなければならないと思います。

みなさんのメンバーをふやすようがんばってください。残された時間は多くはないのですから。

## 環境グループの国際交流を

ポール・ミッチャエル（イギリス）

ポールさんはイギリスのシェフィールド大学で日本問題を研究中。この春から夏にかけて箕面市国際交流協会の招きで日本で研修中にGENのメンバーと交流した人で、環境保全の熱心な活動家です。

水土流失や沙漠化を防ぐために、中國で努力している日本のグループがあると聞き、みなさんを紹介してもらいました。みなさんのような団体・グループは環境保護のために貴重な役割をはたしています。

地球をいい状態に保つためには、各国政府が環境問題の重要性をよく理解し、調査することが欠かせません。そのためにも、環境保護のグループが各国の政府に働きかけ、ますます深刻化している汚染や、天然資源の誤った利用などについて知らせていくことが重要です。

みなさんのようなグループが公正かつ効果的な活動をおこなうには、活動資金も政府にたよらず、自立した存在であることがたいせつだと思います。

日本は海洋汚染や発展途上国の森林資源の乱開発で悪評をとっています。

## GENに入会します

玉置 隆

昨年大学を卒業し、就職をせずに中国・インド・ネパールを旅し、現在アルバイトで生計をたてておられます。

この団体のことは、1年半ほど前に新聞で知り、自然を保護するだけでなく、自分の手で育していくという積極的な取り組みに关心を持ち、1度だけ講演会に参加しました。しかしその後すぐに旅に出てしまい、結局、会員にはならずじまいでした。

前々から環境問題には関心があり、国の環境問題への杜撰な対応を見るにつけて、自分自身で何か行動を起こさなければと思いつつ何もしていない自分が無責任に思えていました。

そして昨年末インドから帰ってきて、今の暮らしを始め、そろそろ就職でもしようかと思っていたところ、以前送られてきた会報をみつけ、この団体のことを思い出し、参加することに決めました。

我々の生命にかかる重要な問題であります。時間の許す限り積極的に参加し、少しでもお役に立てればと思います。

## 平安建都1200年映画をつくる会が 『浮島丸事件』を映画化

「浮島丸事件」をご存知か? ……敗戦直後の1945年8月24日、強制連行された朝鮮人らを乗せた輸送船「浮島丸」が舞鶴港内で謎の爆発を起こし沈没、死者549名(公式発表)を出した海難事故である。青森県下北半島一帯の朝鮮人労働者とその家族を朝鮮に送還する途上での事故であるが、「事件」とされているのは、いまだに爆発の原因が究明されていない点にある。米軍の機雷にぶれたとする触雷説と、日本海軍の陰謀による自爆説があり、後者であれば「事故」ではすまされない。そのほかにも日本政府はな

ぜ、朝鮮人の送還をそんなに急いだのか、青森県大湊港から朝鮮の釜山港に直行するはずだったのに、なぜ舞鶴港に立ち寄ったのか、当時なぜ新聞等で全く報道されなかったのか、など謎が多い。犠牲者の正確な数も不明なままだ。しかも、犠牲者の遺骨のほとんどがいまだに遺族の手に渡っておらず、きちんとした補償もなされていない。

この「浮島丸事件」の映画化の作業が、目下、急ピッチで進められている。母体になっているのは、京都の市民グループ「平安建都1200年映画をつくる会」で、完成は平安建都1200年に

当たる来年10月の予定だ。プロデューサーは反核アニメ「風が吹くとき」の配給を手がけたことで知られる伊藤正昭さん。会のメンバー(現在650名)には、元環境庁長官の大石武一さんや映画監督の山田洋次さん、清水寺貴主の森清範さんらも名を連ねている。

映画化の作業と併行して、会では8月19日~24日(5泊6日)の日程で「48年目の浮島丸ツアー」を行う。大阪空港→青森空港→むつ市→下北半島→函館・札幌・小樽→舞鶴港という旅程、下北・大湊(むつ市)、札幌、舞鶴でそれぞれ交流会がある。費用は大人108,000円、小人88,000円。

問い合わせは☎604 京都市中京区河原町三条上ル京都朝日会館内「平安建都1200年映画をつくる会」☎075-212-0890 FAX.075-212-0891へ。(村上)

## がんばれ! GEN 会員・支持者からのメッセージ

発足以来、多少むりをしているかな……と思うGENの活動ですが、多くのみなさんの支持と激励をうけながら、力いっぱいがんばっています。会員と支持者のみなさんからのメッセージを紹介します。

●みんなのご健闘とGENの発展を祈ります。(O・K)

●なすべき国際貢献の1つですね。いつもおせわさまです。(M・Y)

●このたび緑の地球ネットワーク(GEN)の活動を知り、ただ感激です。私たちは同じ山西省ですが南部青南で4か年生活しました。それは皆様方と逆の方向で破壊の道でした。反省しています。つきましては入会させていただき勉強したいと思います。80歳の老人ですが、なにか役に立つこともあるでしょう。山西省の地図がございましたらご恵送ください。会報の14、15、16号をいただきましたので、できれば17号以降からお願ひします。創刊号は残部がないとのことですが、できましたらコピーでもけっこうですので、No.1~No.13を別にご送付ねがえませんでしょうか。よろしくお願ひ申し上げます。(I・S)

●世話をのみなさん、身体に気をつけて頑張ってください。(Y・N)

●忙しくてなかなかお手伝いできないかも知れませんが、実地での活動も興味がありますので、情報等よろしくお願ひいたします。(Y・H)

●私の友人で京都府北部に住むN君という人がいます。茅ぶきの家が多く残る町です。GENの催しで育林講習など、できることがあれば協力したいという申し出がありましたので、必要が生じれば連絡してあげて下さい。(T・M)

●趣旨の重要性を1人でも多く理解していただくべく努力していきたいと思います。(K・H)

●佐野さんによろしく。また、いまちょっと貧乏なくらしになっています。(S・H)

●うるおいある生活、万物の靈長たる資格を失わないために。(A・K)

●私たちのグループはNO<sub>2</sub>の測定をし、車社会の是正が不可欠だという考え方で、〈松枯れに農薬散布〉という方法をやめてもらうよう運動していま

す。(A・A)

●みなさんお元気でがんばっておられるようですね。そのうち事務所にも立ち寄らせていただきます。衆院選に泉州で長谷川さんが出ることで面白くなっています。問題は堺・泉州でどういう運動をつくるかです。(K・M)

●私の属する大阪市青少年国際交流協議会の方たちから、心あたたまる募金をしていただきました。また近いうちに事務所へ行きます。(K・E)

●黄土高原の緑化にお役立てください。5万円はその費用として、残額は前回の写真代です。(Y・C)

## 編集後記

熱心な読者のみなさんはお気づきかもしれません。ネパールへの2か月の考察団の派遣、黄土高原へのワーキングツアーパッケージの準備、その他その他で大忙し。そのあいまをぬっての編集作業ですから、多少、発行が遅れぎみのうえ、単調になっているのはまぬがれません。

正式発足の準備段階から、走りに走っている状態がつづきましたので、すこしゆとりをもって、能動性を回復しないといけない、と自戒はしているのですが……。秋までこの忙しさがつづくとたいへん。(T・K)